

# HPVワクチン接種後の 機能的な身体症状への対応



鈴木富雄 (大阪医科大学病院総合診療科科長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶ 登録手続

<b>Introduction</b>	—————	p2
<b>1</b> 具体例をもとに考える、機能的な身体症状への対応	—————	p5
<b>2</b> 予防接種ストレス関連反応と解離性神経症状反応	—————	p17
<b>3</b> 必要に応じて協力医療機関と連携を	—————	p19

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

# Introduction

## 1 具体例をもとに考える、機能的な身体症状への対応

2022年4月からヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンの積極的勧奨が再開された。接種後の多様な症状はワクチン固有の問題ではなく、「機能的な身体症状」としてとらえるのが妥当である。

下記症例をもとに、HPVワクチン接種後の機能的な身体症状にどのように対応すればよいのか解説する。

### 症例

16歳女性。14歳時にHPVワクチン接種後、浮遊感と四肢の疼痛を自覚。複数の医療機関の検査では異常所見なく、HPVワクチンの副反応とされた。各種の治療を試されるも改善せず、1日中寝たきりとなり、高校に登校できない状態が続いている。

#### (1) 病歴聴取と身体診察

起立性調節障害の体位性頻脈症候群 (POTS) と慢性疼痛が重なった機能的な身体症状として対応した。

#### (2) POTSとは

起立時にめまいなどの起立不耐症状を伴うが、起立性低血圧は認めず、高度の頻脈をきたす病態の総称である。

#### (3) 慢性疼痛とは

慢性疼痛は、炎症性などの“侵害受容性疼痛”や、神経損傷性などの“神経障害性疼痛”に代表される器質性疼痛に加え、心因性などの“非器質性疼痛”によっても起こりうる。

#### (4) 機能的な身体症状とは

何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査で症状に合致す

る異常所見が見つからない状態のことである。DSM-5の「身体症状症」として対応するのがよいと考える。

### (5) 身体症状症とは

主に全身の疼痛，呼吸困難，めまい，動悸などの症状があり，不安と抑うつ症状も併発しやすく，「不定愁訴」「自律神経失調症」などの診断名をつけられていることが多い。身体症状症の患者の不安を理解し，対応の原則に従い，丁寧に説明を行うことが必要である。

### (6) 症状と治療方針に関する説明—原因探しの旅からの解放

身体と精神という二元論で別々に語るのではなく，相互に関連して症状となっていると説明。「外部から刺激を与えていないのに症状を強く感じるのは，脳の神経経路のある部分が過敏になりすぎて，通常は感じなくてもよい感覚が異常に増幅して伝えられている状態」と話をし，治療方針を説明した。

### (7) 難治性の症状に心因性要因が大きく関係する場合の注意事項

医師も患者も症状に固執し，原因探しに没頭するのではなく，症状も包括しながら日常生活全体の質を改善することに，治療の主眼を置く。

### (8) 本症例のその後の経過

薬物療法に加え，身体症状症の診療原則に則り，簡易的な認知行動療法を行いながら，3年の診療経過の中で症状は改善した。

## 2 予防接種ストレス関連反応と解離性神経症状反応

世界保健機関 (WHO) は，ワクチン接種後の有害事象について，「[予防接種ストレス関連反応 \(ISRR\)](#)」を提唱した (下記 QR コード)。急性反応には急性ストレス反応と血管迷走神経反射があり，遅れて発症する異常運動，非てんかん性痙攣などを「[解離性神経症状反応 \(DNSR\)](#)」と名づけた。



HPVワクチン接種後の機能性身体症状は、ISRRの中のDNSRに相当すると考えられるが、生物医学的な観点のみならず、心理社会的な観点も重要である。ワクチン接種に関わるすべての医療者は、この概念を正しく理解し、適切に対応する必要がある。

### 3 必要に応じて協力医療機関と連携を

診療の中で困難があれば、厚生労働省のHPに「[ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関](#)」の一覧(下記QRコード)が掲載されているので、連携をとりながら診療を行う。

